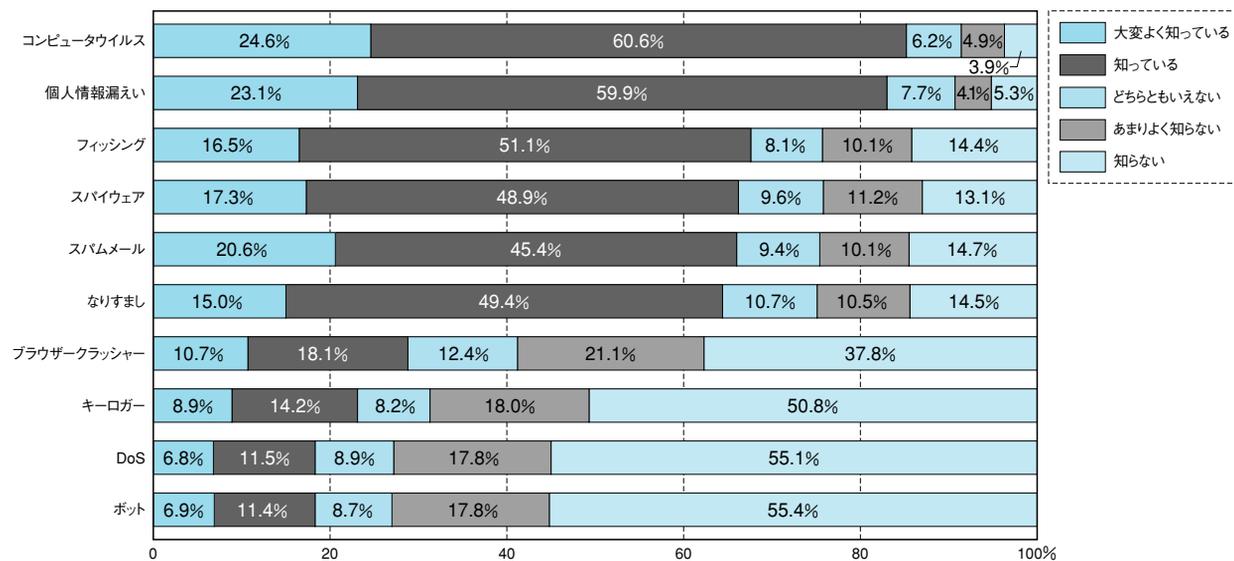


有害情報

有害情報は認知しているものとしていないものが2極化

資料2-11-1 有害情報の知識 N=2,000

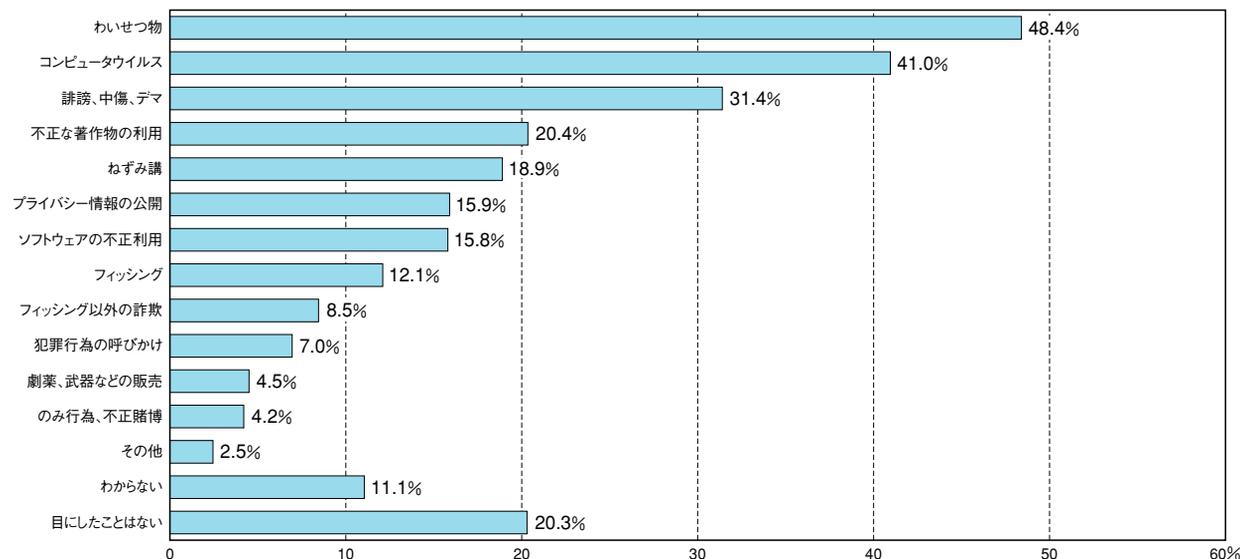


有害情報であるスパムやウイルスなどの認知度をみると、「大変よく知っている」「知っている」をあわせた理解層でみると、「コンピュータウイルス」「個人情報漏えい」が80%を超え、高い。一方で「ブラウザクラッシャー」や「キーロガー」「ボット」「DoS」では2~3割程度に過ぎないが、用語と有害情報の内容が結びついていないと思われる。

©impress R&D,2007

7割の利用者が有害情報への接触経験あり

資料2-11-2 有害情報への接触状況(複数回答) N=2,000



有害情報への接触経験をみると、「目にしたことはない」が20.3%であり、「わからない」を除く7割のインターネット利用者が有害情報への接触経験を持つ。ウイルスに対しては、ウイルスソフトなどの利用が広がっているが、家庭内で子供がインターネットを利用するケースも増えていることから、わいせつ物に対するフィルタリングソフトの導入なども今後重要になるとと思われる。

©impress R&D,2007



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)